

三次市地域公共交通網形成計画策定に向けた

業務の進め方

平成 27 年 8 月 26 日

1. 策定の目的

三次市では平成 21 年度に策定した、「三次市地域公共交通総合連携計画」を地域公共交通体系づくりの根幹とし、生活交通の維持・活性化に取り組んできた。しかしその一方で、少子高齢化に伴う地域問題はさらに深刻化しており、地域の活性化につながる継続可能な公共交通の運営が大きな課題となっている。

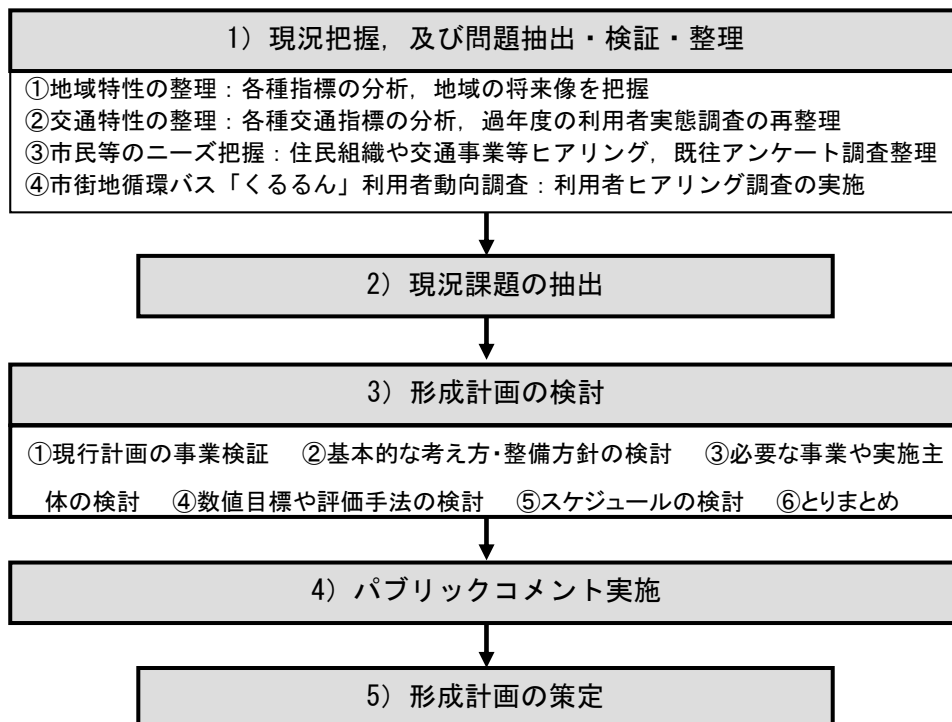
かかる状況を踏まえ、本市のまちづくり施策と連携した公共交通の維持・活性化施策を推進し、地域の実情に応じた公共交通体系の構築や交通サービスの利便性向上を図るため、「三次市地域公共交通網形成計画（以下「形成計画」という。）」の策定を行う。

2. 基本的な考え方

今後、特に旧町エリアを中心に人口減少・高齢化が加速度的に広がる危険性があることを踏まえて、次の事項を念頭におく計画とする。

- ①既存の地域公共交通サービスの効率化
- ②交通空白地域の解消に資する移動支援サービスの検討
- ③住民自治組織との連携による生活移動支援の実現
- ④バス路線・系統別の評価基準の明確化（収支率、便あたり利用者数など）
- ⑤人口減少社会に対応するまちづくりの支援

3. 調査の流れ



三次市地域公共交通会議において検証・決定

4. 調査内容

1) 現況把握、及び問題抽出・検証・整理

①地域特性の整理

人口や社会経済、また市民生活に関連する指標や資料等を用いて、本市における地域の現状や問題点、また地域の将来像について整理する。

項目	指標や資料など
人口・社会経済 等	・人口(経年変化, 将来)・高齢化の状況, 世帯数, 主要生活施設の立地状況, 企業数等の社会・経済指標を整理する。
まちづくり計画 等	・本市の地域づくりに関係する資料のうち, 地域の将来像や公共交通網形成に関係する事項を抽出し, 整理する。 (整理する計画例) ・三次市総合計画「みよし百年物語」計画書 H18年3月 ・第二次三次市総合計画 H26年3月 ・三次市まちづくり事例集(三次市まち・ゆめ基本条例) H22年3月 ・過疎地域自立促進計画 H22年9月(H27年3月一部変更) ・三次市地域戦略プラン H23年7月 など

②交通特性の整理

本市で運行する公共交通に関連する指標等を用いて、地域公共交通の現状や特徴、問題点について分析を行う。

具体的には次の指標等の整理を行い、図表等でまとめる。

項目	指標	
交通施設の状況	道路網	—
	鉄道網	国土数値情報(鉄道データ)
鉄道利用の状況	運行内容	JR時刻表等
	駅別乗降人員	JRよりデータ収集必要
路線バス利用の状況	路線	市, 交通事業者等保有データ
	運行内容	
	バス路線のカバー状況	
市民バス, 市民タクシー利用の状況	乗車密度, 事業収支	市保有データ
	路線	市, 交通事業者等保有データ
	運行内容	
市民バス路線のカバー状況	バス停留所からの500m圏	
	乗車人員, 事業収支	市保有データ

上記に加えて、バスについては「H24 バス利用者行動調査」結果を活用して、路線別利用実態を整理するとともに、その特徴や問題などを分析する。

【H24 バス利用者行動調査とは】

本調査は、路線バス(市街地循環バス除く)、市民バスを対象として、乗降調査及びアンケート・ヒアリングを実施し、バスの利用実態(利用バス停や目的など)を把握したものである。

[調査日] 路線バス: 9月26日(水), 27日(木), 29日(土) ※9月26日(水)は畠敷線のみ
市民バス: 10月15日(月)~11月7日(水)

③市民等のニーズ把握

③-1 住民組織ヒアリング調査

これからの持続可能な公共交通づくりに向けては、住民主導で守る仕組みの定着が不可欠と考える。これを踏まえ、各地域において生活移動を支援する役割が期待できる住民自治組織に対するヒアリング調査を行う。

聞き取り先	住民自治組織(19箇所)
主な把握事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する問題(特に移動に関する内容)や地域住民の要望 ・交通空白地帯の有無 ・住民自治組織の運営上の問題 ・住民自治組織が地域の移動支援を行う可能性や課題 など

なお、栗屋地域(栗屋町づくり協議会)に対しては、市民タクシー制度の運営上の問題点なども把握する。

③-2 地域団体等ヒアリング調査

先の住民自治組織と同様に、地域で生活移動を支える組織としてはNPO等も期待でき、既にサービスが稼働している箇所もある。これを踏まえ、地域のNPO団体へのヒアリング調査を行う。

聞き取り先	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化プロジェクトチーム GAMBO ・元気むら さくぎ(自家用有償運送サービスを実施中)
主な把握事項	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の活動概要 ・地域の活性化や移動円滑化に向けた課題や行政への要望 ・公共交通支援に向けた協力・連携の可能性 など

③-3 関連機関へのヒアリング調査

次に示すヒアリング調査により、地域の現状や交通問題等を把握する。

聞き取り先	把握事項
交通事業者 (市民バス事業者等) <ul style="list-style-type: none"> ・(有)君田交通 ・十番交通(有) ・(有)三和タクシー ・(有)甲奴タクシー ・三次広域商工会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の運営サイドからみたサービスの課題(利用が減少した区間、時間帯の有無など) ・事業者からみたサービス維持に向けた方向性へのアドバイス ・乗客からの要望・意見(可能であれば乗務員に確認) など
民生委員 (1箇所程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で高齢者の生活支援等に携わっている民生委員の方々を対象に、マイカーに頼れない高齢者の日常や交通手段に係る問題点などを聞く。
診療所、医療センター (5箇所程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・通院者の交通手段(公共交通利用の程度) ・将来に向けて、地域の医療機能の維持や通院の支援への考え方 など

③-4 既存アンケート調査等の整理・分析

これまでに本市において実施したアンケート調査のうち、市民意識や日常生活実態などが確認できる調査結果を再整理し、市民生活に関する特徴や交通の満足度などを分析する。

既往調査	・三次市総合計画策定アンケート／平成 25 年 3 月 ・都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査／平成 27 年 3 月
------	--

④市街地循環バス「くるるん」利用者動向調査

市街地循環バス「くるるん」の利用実態や利用者のニーズを把握するために、利用者へのヒアリング調査及び乗降調査を行う。

※市街地循環バスは「H24 バス利用者行動調査」において、調査対象に含まれていない。

■ 調査方法

- ・調査員(各便 1 名)がバス車内でヒアリング調査を行うとともに、停留所毎の乗降者数を記入する

■ 調査対象

- ・市街地循環バス「くるるん」

■ 調査日

- ・平日・土曜日各 1 日

■ 調査項目

- ・利用目的・行き先, 利用区間・頻度, ルート変更の影響, 要望 等

2) 現況課題の抽出

現況把握の結果を踏まえ、地域の将来像等、まちづくり（地域の生き残り）の視点を踏まえた上で、地域公共交通の維持・活性化に係る課題を抽出する。

3) 形成計画の検討

①現行計画の事業検証

「三次市地域公共交通総合連携計画」期間内の運行事業に対して、主に「経済性」「効率性」「有効性」の視点で検証・評価する。

	評価指標（例）
経済性	運行経費, 市の損失補填額など
効率性	利用者数・乗車密度, 利用者あたりの運行経費・損失補填額など
有効性	バス停別乗車人員(H24 調査より), 運行事業者の意見など

②基本的な考え方・整備方針の検討

本市における将来に向けた地域づくり（本市の将来像）を前提として、市民生活を支援でき、かつ持続可能な地域公共交通網の形成に向けた基本的な考え方を検討する。

本市の将来像については、既存の関連計画や、現在検討中の「人口ビジョン・総合戦略」などと整合を図るとともに、特に旧町エリアにおける急激な人口減少（過疎化）を視野に入れて、地域の生き残りを移動面から支援することを念頭におく。

また、形成計画における生活交通づくりの基本的な考え方（基本コンセプト）は、「三次市地域公共交通総合連携計画」の考え方を踏襲することを基本とする。

《連携計画の基本コンセプト》

みんなで守り みんなで育てる 地域（ふるさと）の公共交通

③必要な事業や実施主体の検討

本市の地域公共交通の現状や課題を踏まえて必要な事業や実施主体を検討する。

例えば、次の項目が想定できる。

現状課題 (案)	課題に対応する施策 (案)	検討の進め方 (案)
ア 路線バスにおいて、乗車密度が2人未満など、不効率な系統や区間が存在	路線バスの再編・見直しに関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ○本業務で整理する利用実態や評価指標（利用者数、乗車密度、補填額等）を参考に系統別の評価を行い、必要性や採算性等に問題がある路線を抽出する。 ○上記の結果やまちづくりの方向性などを踏まえて、必要な路線については見直し方針を検討する。 ○市街地循環便（くるるん）は、利用者アンケート結果を元に必要があれば改善方策を検討する。
イ 市民バスにおいて、平均乗車人員が1人/便未満など、不効率な路線や区間が存在	市民バスの再編・見直しに関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ○利用実態や交通事業者へのヒアリング調査結果を踏まえて、（利用者の無くなった等）必要な路線・区間についてサービス内容の見直しを検討する。 ○仮に、極端に利用者が少なく、抜本的な見直し検討が必要と判断できる路線がある場合は、住民組織や交通事業者等と協議の上で方向性を決定する。
ウ 現状の運行サービスでカバーされておらず、かつニーズがある空白エリアが存在	交通空白地域への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ニーズは、「住民自治組織」のヒアリングより把握する。 ○現行の市民タクシー制度の課題を整理するとともに、新たな地域への導入促進方策を検討する。 ○さらに、市民タクシー制度に限定せず、実情に見合った新しい交通空白地域への対応方策について、先進事例（さくぎニコニコ便等）なども踏まえて検討する。
エ 市全体（あるいは個別路線）の公共交通利用者数が減少	地域公共交通の利用促進に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの取組実績や先進事例などを踏まえて、本市の実情に合い、かつ可能な利用促進策を検討する。 ○その際、利用促進方策は、継続することが必要であるため、行政のみではなく、関連機関を連携・協働して実践することを念頭に方策を検討する。
オ 過疎化等が進む中、各地域の移動は地域で支える考え方の重要性が高まる	住民自治組織との連携・協働の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、地域の生活交通を住民主導で守ることの必要性を市民に理解して頂くとともに、地域活動を支えている「住民自治組織」との連携・協働の方法について検討する。 ○その際、現在、市民タクシー制度の事務局を担っている地域があるため、これをトップランナーとして水平展開を図る可能性についても、全ての住民自治組織へのヒアリング調査を通じて検討する。
カ 三次駅整備に伴い、拠点性が高まる	鉄道（JR西日本）との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○JR西日本と連携して利便性向上や、利用促進策を検討する。

④数値目標や評価手法の検討

定量指標を活用して形成計画の数値目標を設定するとともに、計画事業が着実に実行され、かつ効果が出現するようにPDCAの仕組みを検討する。

その際、各事業は勿論、形成計画自体も見直しできる仕組みとする。

⑤スケジュールの検討

形成計画に掲げた計画事業の実施スケジュールを検討する。

⑥とりまとめ

上記までの検討結果を、形成計画（素案）として編集・とりまとめを行う。

4) パブリックコメントの実施：【2月上旬頃を予定】

5) 形成計画の策定

パブリックコメントの実施結果より得られた市民からの意見に対して必要な修正を行う。

修正した結果を、交通会議に諮った上で、形成計画を策定する。

またさらに、形成計画の内容について市民・交通事業者・庁内（職員）への理解促進に活用できるように概要版を作成する。

5. スケジュール

業務種別	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画準備	■							
1) 現況把握、問題抽出・検証・整理		■ ←ヒアリング等ニーズ把握→						
2) 現況課題の整理			■					
3) 形成計画の検討				■				
4) パブリックコメント							■	
5) 形成計画の策定							■	